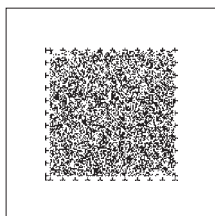
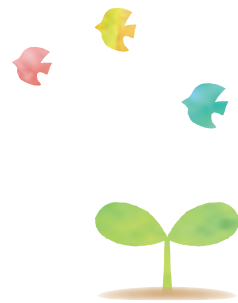


福岡県共助社会づくり 基金ニュース

令和元年度
事業報告書

Fukuoka Prefecture Mutual Assistance Society Fund News

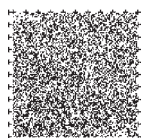
いいをつないで、いいを育む
みんなで作る、みらいにいいこと



福岡県NPO・
ボランティアセンター

CONTENTS

福岡県共助社会づくり基金について	2
寄附金の種類／寄附の手続き 寄附のメリット	3
ふくおか地域貢献活動サポート事業とは	4
寄附者のご紹介	
イオン九州株式会社・マックスバリュ九州株式会社	5
九州朝日放送株式会社 ご寄附いただいた皆様	6
令和元年度ふくおか地域貢献活動サポート事業のご紹介	
<自由提案型>	
01. 特別支援学校を活用した地域における支援事業 (NPO 法人しいだコミュニティ倶楽部／築上町教育委員会生涯学習課)	7
02. 認知症カフェの普及拡大で県民の認知症の進行防止・早期発見・予防 (一般社団法人久留米健康くらぶ／音成脳神経内科・内科クリニック／株式会社王子&エムコム)	8
03. 音楽を通じて子ども達に夢やふるさとへの愛着を育む (田川で第九をうたうバイ合唱団／田川市教育委員会)	9
04. 朝倉子ども祭り2019を通して登校拒否の子ども達に新しい居場所作りを行います! (朝倉子ども祭り実行委員会／朝倉地域振興プロジェクト実行委員会)	10
05. 地域住民が社会貢献に積極的に関わる勇気を培う町家カフェの設立 (特定非営利活動法人文化財保存工学研究室／平田家住宅を保存する会／はぜの会)	11
06. 楽しく学んで一緒に育つ!わくわくたまご (rainbow house／福岡わくわく体験クラブ／夢♡新宮)	12
07. 発達障害等の方のメンタルヘルス不調による休業や離職を防ぐ事業 (一般社団法人キャリアサポートクラブ／学校法人国際学園)	13
08. 糸島暮らしと仕事のコミュニケーション&スキルアップ講座 (一般社団法人ママトコラボ／糸島市商工観光課)	14
09. 「みんなの学校・みんなの社会～みんなががつてみんなイイ!」 (WarmBlueIIZUKA／株式会社NOTE／株式会社Tommy's New Partner／飯塚市教育委員会)	15
10. 食を通して広げよう健康の和 聞こえる人と聞こえない人の輪 (特定非営利活動法人栄養ケア・ちっこ／久留米信愛短期大学／柳川市聴覚障害者協会)	16
11. 小学校における生物多様性の保全に関する環境教育事業 (一般社団法人まほろば自然学校／NPO 法人ミティエイド／株式会社 YOUI)	17
12. おもてなしキッズの煎茶による茶会 (特定非営利活動法人 Wing-Wing／一般社団法人お茶結びプロジェクト)	18
<テーマ型－災害支援枠>	
01. 朝倉市黒川地区の農村復興支援事業 (特定非営利活動法人山村塾／黒川復興プロジェクト／九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門朝廣研究室)	19
02. 朝倉市共同ボランティアセンター設立運営事業 (地元応援隊「ひまわり」／久喜宮地域コミュニティ協議会／朝倉市ふるさと課)	20
03. 学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援 (特定非営利活動法人 フリースペース よつば／久喜宮地域コミュニティ協議会／東峰村教育委員会)	21
04. 朝倉・頼田仮設と近郊みなし仮設入居者をみまもり支援する (朝倉市ボランティア連絡協議会／グリーンコープふくおか)	22
05. 東峰村農業復興支援プロジェクト (東峰村元氣プロジェクト／有限会社つつみの里／東峰村社会福祉協議会)	23
06. 被災した子どもからお年寄りまで、みんなの心の居場所になれるプレーパーク事業 (すくすく朝倉の未来隊!／朝倉災害母子支援センターきずな／福岡学生災害支援実行委員会)	24
07. 危険箇所仮修復及び地域防災減災講話 (ALL 救済 DISASTER RELIEF CREW／杷木復興支援ベース)	25
認定・特例認定NPO法人のご紹介	26





福岡県共助社会づくり基金について

福岡県では、NPO・ボランティアや企業、行政などの多様な主体が地域の課題を解決するため、互いに支えあい、共に助け合う「共助社会」の実現を目指しています。

福岡県共助社会づくり基金は、この趣旨にご賛同いただいた県民や企業の皆さんの思いを「寄附」という形でお預かりし、NPO・ボランティアが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へとつなぐ基金です。

特徴 1

寄附者の思いを受けとめます

「広く地域課題の解決を図る取組を応援したい」という県民や企業の皆さんから「寄附」をお受けします。寄附者が応援したい活動分野やテーマを指定して寄附することもできます。

特徴 2

課題解決に取り組むNPOへとつなぎます

お預かりした寄附は、NPOが多様な主体と協働して地域課題の解決に取り組む社会貢献活動へ助成を行う「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。NPOから協働事業の企画案を募集し、審査を経て助成対象となる協働事業を決定します。原則として、前年度にいただいた寄附を翌年度の「ふくおか地域貢献活動サポート事業」に活用します。

特徴 3

事業の成果をお知らせします

NPOにより実施された協働事業の成果は、成果発表会の開催や報告書「福岡県共助社会づくり基金ニュース」の発行などを通じて、広く県民の皆さんにお知らせします。

特徴 4

寄附された方のお名前を公表します

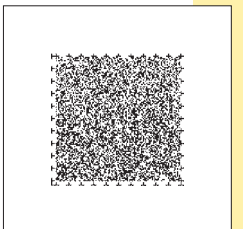
寄附者のお名前(企業名)は、広く県民の皆さんに公表します。詳しくは3ページをご覧ください。

特徴 5

寄附者は税制上の優遇措置が受けられます

福岡県共助社会づくり基金へのご寄附は、税制上の優遇措置の対象となります。詳しくは3ページをご覧ください。

基金のしくみ



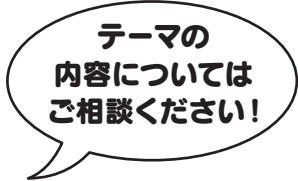


寄附金の種類／寄附の手続き

- 普通寄附金** 共助社会づくりの活動を広く応援したい場合
- テーマ型寄附金** 特定のテーマを応援したい
※個別のテーマ指定ができるのは50万円から

過去に実施したテーマはこちら

平成25年～平成28年 福岡県の豊かな自然や景観などの環境保全活動
 平成28年 熊本地震の震災支援
 平成29年 熊本地震の震災支援、九州北部豪雨の被災地支援
 平成30年 九州北部豪雨の災害支援
 平成31/令和元年 平成29年九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨の被災地支援



寄附の手続き

- 1.ご相談**
まずは福岡県NPO・ボランティアセンターにご相談ください。
- 2.お申し込み**
寄附金申込書をお送りします。ご記入後、郵便・ファックス・電子メールのいずれかでお申し込みください。
- 3.払い込み** 振込手数料はかかりません
福岡県から納付書を送付いたしますので、お近くの金融機関でお振込みください。



寄附をすることで、2つのメリットがあります

税制上の優遇措置を受けることができます

企業の場合 資本金の額にかかわらず、寄附金の全額を損金算入することができます。

個人の場合

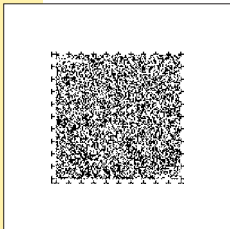
所得税	[寄附金額の合計額 - 2,000円] × 所得税の税率 ※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の40%が上限です。
個人住民税	①基本控除 [寄附金額 - 2,000円] × 10% ※なお、控除の対象となる寄附金額は総所得金額等の30%が上限です。 ②特例控除 1. [寄附金額 - 2,000円] × [100% - 10% (基本分) - 所得税の税率] ※この特例分が住民税所得割額の2割を超えない場合 2. (住民税所得割額) × 20% ※この特例分が住民税所得割額の2割を超える場合
相続税	相続または遺贈により取得した財産を申告期限内に一定の要件を満たし、寄附した場合、その寄附をした財産は、相続税の課税価格の計算に算入されません。

ご確認ください

- 税制上の優遇措置を受けるには、所得税の確定申告が必要です。
- 具体的な控除の額は、各担当部署へお問い合わせください。
・所得税について……最寄の税務署
・個人住民税について……お住まいの市区町村税務課

お名前を公表させていただきます

ご寄附いただいた方のお名前を「福岡県共助社会づくり基金ニュース」や「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」に掲載させていただきます。(匿名とすることも可能です)



ふくおか地域貢献活動サポート事業とは

「福岡県共助社会づくり基金」を活用して、NPO・ボランティアが企業や行政などの多様な主体と協働して、地域課題の解決に取り組む社会貢献活動を応援する助成事業です。



自由提案型 **普通寄附金** を活用した、活動分野を限定しない事業
令和元年度：12件採択 詳細は7ページから18ページ

テーマ型 **テーマ型寄附金** を活用した、寄附者の意向による一定のテーマに基づく協働事業
令和元年度：テーマ「平成29年九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨の被災地支援」
7件採択 詳細は19ページから25ページ

事業スケジュール ※年度によって変わることがあります

3月末～4月末	5月	6月	～3月	3月
事業の募集	審査会	採択事業の決定 事業開始	事業の実施	報告
NPO等が主体の協議体による、県内の社会貢献活動の企画を募集	外部の審査委員による プレゼンテーション審査	原則、1件50万円を上限に、 採択事業を決定 採択後、事業開始	県内各地にて、協議体による 社会貢献活動を実施 福岡県共助社会づくり基金 ホームページで活動を情報 発信	協議体からの実施報告や、寄 附者の皆様、審査委員との交 流会をかねた報告会を開催 福岡県共助社会づくり基金 ニュース(事業報告書)の発行

福岡県共助社会づくり基金ホームページのご紹介

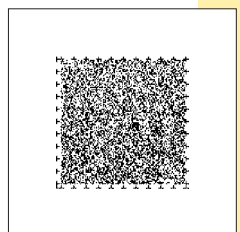
このホームページでは、今までにご寄附をいただいた寄附者の皆様や、寄附金の活用実績などを掲載しています。共助社会づくり基金への寄附を検討されている方、NPO・ボランティア団体が取り組む協働事業を応援したい方、ぜひ一度「福岡県共助社会づくり基金ホームページ」をご覧ください。



ぜひ
ご覧ください



<https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp>



イオン九州株式会社・マックスバリュ九州株式会社

【企業紹介】

イオン株式会社は2010年から、全国各地の地域行政と協働し、防災・福祉・環境保全の推進や「ご当地WAON」などを活用した商業・観光の振興など、さまざまな分野で双方が持つ資源を有効に活用するための協定を締結し、活動を展開しています。イオンと福岡県は、2012年4月に包括連携協定を締結し、福岡県の活性化と県民サービスの向上に協働で取り組んでいます。その取組のひとつが「ふくおか共創WAONカード」です。これは、全国のイオンのお店や加盟店で使える電子マネーカードで、利用額の0.1%を「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による「共助社会づくり」に役立ててもらうものです。現在、イオンでは140券種を超える「ご当地WAON」が発行されていますが、これからもその輪を広げて地域の活性化のお役に立ちたいと考えています。



令和元年6月 イオン九州株式会社及びマックスバリュ九州株式会社からの寄附金贈呈式
 (写真左から マックスバリュ九州株式会社 松尾博文執行役員福岡事業部長、小川洋福岡県知事、イオン九州株式会社 柴田祐司代表取締役社長)

イオン九州株式会社コーポレートコミュニケーション部九州エリア政策グループ部長の貴島昇さんにお話を伺いました。

Q:今年度は、御社からの寄附により「自由提案型」の12事業に助成することができました。それらの事業について、ご感想をお聞かせください。

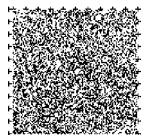
貴島さん: NPOやボランティアのみなさんが、企業や学校、行政など様々な主体と一緒に社会課題の解決に取り組まれており、いずれの事業も「共助社会づくり」に向けた取組になっていると思います。例えば、「朝倉わんぱく子ども応援団」さんの取組では、近年増加している不登校の児童・生徒達の居場所・受け皿として地域のお祭りを活用し、地域住民や企業も一緒になって、子ども達を地域で支える「共助」の取組だと思います。また「shinguわくわくたまご」さんの取組では、子育て中の親子が一緒に楽しみ、学べる講座やイベントを実施しており、各団体の強みを活かしながら事業に取り組まれています。他の団体さんも含め、いずれの事業も「共助社会づくり」に繋がる素晴らしい取組だと感じています。

Q:寄附金の活用について、今後の希望をお聞かせください。

貴島さん: イオングループでは「お客さまを原点に地域社会に貢献する」という基本理念の実践のため、地域に密着した活動を続けており、「ご当地WAON」もその一環として取り組まさせていただきます。寄附金についても、子どもや障がい者の支援、地域活性化など、様々な地域社会の貢献につながる事業に活用していただくと非常に嬉しく思います。「ふくおか共創WAONカード」を使うことによって誰もが簡単にボランティアができる、また「福岡県共助社会づくり基金」からNPOやボランティア団体が行う協働事業への支援を通じて、ひいては福岡県の活性化に繋がっていくという仕組みや、その成果をより多くの方へお伝えし、ご理解していただいたうえで、「ふくおか共創WAON」の利用者が増え、寄附の好循環が生まれるように、今後とも地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続けることを目指してまいります。



福岡県のご当地WAON
「ふくおか共創WAONカード」



九州朝日放送株式会社

【企業紹介】

「KBC水と緑のキャンペーン」は、自分たちが暮らす足元から自然環境について考えていこうと、創立45周年を記念して1997年からスタートし、昨年で23回目を迎えた環境キャンペーンです。KBCのテレビ、ラジオ、イベントなどを通じて環境保護の大切さを訴えるとともに、「KBC水と緑の基金」を募り、いただいた浄財を名木治療や被災地支援に活用してきました。17回目からは、「福岡県共助社会づくり基金」に寄附し、NPO・ボランティア団体と企業、行政などの多様な主体との協働による福岡県の環境保全・保護活動や被災地支援に役立てて頂いています。今はまだ当たり前前に存在しているふるさとの自然にも、私たちの知らないうちに変化が起きているのかもしれない。大切な「タカラモノ」がいつも、いつまでも私たちのそばにあるように未来に向けて皆さんと一緒に考えていく「未来に残したいタカラモノ」をテーマにキャンペーンを展開しています。



令和2年1月 九州朝日放送株式会社からの寄附金贈呈式
(写真左から小川洋福岡県知事、九州朝日放送株式会社 和氣 靖 代表取締役社長)

九州朝日放送株式会社総合編成局次長兼テレビ編成部長の大保一さんにお話を伺いました。

Q:今年度のふくおか地域貢献活動サポート事業について、ご感想をお聞かせください。

大保さん：どの事業も、被災地の方に寄り添った支援事業となっており、視聴者・聴視者の皆様からいただいた寄附金を有効に活用いただいていることを大変嬉しく思います。被災地の復旧・復興にはこれからも息の長い支援が必要ですので、九州朝日放送としても情報発信をしながらサポートを継続していければと思います。

令和元年度事業にご寄附いただいた皆様

イオン九州株式会社 (平成31年4月)	3,720,838円	自由提案型
マックスバリュ九州株式会社 (平成31年4月)	703,094円	自由提案型
株式会社ダイエー (平成31年4月)	178,649円	自由提案型
トヨタL&F福岡株式会社 (平成31年4月)	836,500円	自由提案型
西部ガス株式会社 (令和元年5月)	300,000円	自由提案型
損害保険ジャパン日本興亜株式会社 (平成31年3月)	141,318円	自由提案型
NPO法人福岡グリーンヘルパーの会 (平成30年8月)	2,009円	自由提案型
九州朝日放送株式会社 (平成30年12月)	5,000,000円	災害支援枠

ご支援をいただき
ありがとうございました。

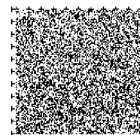
寄附金額合計

10,882,408円

※括弧内は寄附金納付年・月

自由提案型 P7～P18の自由提案型に活用

災害支援枠 P19～P25のテーマ型(災害支援枠)に活用



自由提案型 01

特別支援学校を活用した地域における支援事業

協議体 特別支援学校を活用した地域における支援協議会

所 在：築上郡築上町大字高塚787番地2

〈構成団体と役割〉

◆NPO法人しいだコミュニティ倶楽部

障がい者スポーツに取り組んでいる経験を活かした企画、実施

◆築上町教育委員会生涯学習課

障がい者スポーツ教室等の実施ノウハウを活かした事業への指導、助言

〈問い合わせ先〉

◆特別支援学校を活用した地域における支援協議会

住 所 築上郡築上町大字高塚787番地2

電 話 0930-56-0075 F A X 0930-56-0075

メー ル s-taiikukan@mild.ocn.ne.jp



学校の先生とスタッフで協力し、生徒達にたくさんの笑顔が溢れた交流学習(遠足)

課題・背景・目的

特別支援学校に在籍する児童・生徒が安全に楽しみながらニュースポーツや競技性の高い障がい者スポーツに触れることのできる機会を創出する。

あわせて、スポーツを通じた障がい者と地域住民との交流の機会を設けることで、相互理解を深める。

主な取組内容

築城特別支援学校において、在籍する児童・生徒を対象にした、ターゲットボールやバツゴー、ピンゴボッチャなど、複数のニュースポーツを時間いっぱい楽しむ「ニュースポーツ屋台村」や、児童・生徒の保護者や地域の人参加できる「みんなで楽しむ地域のスポーツ大会」を開催。

工夫した点

あえて厳しいルールを設定せずに、個々の児童・生徒のレベルに合わせて実施することで、達成感や喜びを感じ、楽しく参加できるようにした。また、参加する障がい者の方に安心してもらうため、そして地域で活動していく中で顔を覚えてもらうため、スタッフは統一したユニフォームで参加するようにした。

事業の成果・今後の展開

学校でニュースポーツの体験を行うことで、児童・生徒が安心して体験でき、スポーツに慣れ親しむきっかけを作ることができた。また、一人での外出が難しく休日引きこもりがちになる児童・生徒に対し、“学校に来た団体”や“見たことのある地域の人”が参加・運営するイベントの存在を伝えることで、外出に対する気持ちの後押しにつながった。今後も体験活動を継続予定。

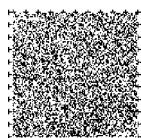
主な経費 スタッフ謝金、交通費、ニュースポーツ消耗品、バス借り上げ料など



ニュースポーツを知的の生徒たちが楽しめるようにアレンジしたスポーツ屋台村の「釣っこ」



スタッフのアシスタントのもと、肢体不自由の生徒達も楽しんだスポーツ屋台村の「ゴールボール」



自由提案型 02

認知症カフェの普及拡大で 県民の認知症の進行防止・早期発見・予防

協議体 久留米認知症カフェを広める会

所 在：久留米市中央町35-1

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人久留米健康くらぶ
事務局、広報、認知症カフェ運営者への運営ノウハウの提供
- ◆音成脳神経内科・内科クリニック
医師会への渉外、企画、広報
- ◆株式会社王子&エムコム
介護福祉事業者や薬剤師会への渉外、ケアマネ・薬剤師の派遣、企画、広報

〈問い合わせ先〉

◆久留米認知症カフェを広める会

住 所 久留米市中央町35-1

電 話 0942-35-0212 F A X 0942-35-0212

メール kenkou@117fureai.org

HP・SNS等 <http://117fureai.org/>



第1回福岡県認知症カフェ交流会

課題・背景・目的

認知症の不安を抱える人や家族がいつでも気軽に集い、相談・交流のできる認知症カフェは、認知症の進行防止・早期発見・予防に効果的であり、ひいては医療費・介護費の削減、安全安心なまちづくりにつながる。しかし、認知症カフェでは運営資金やスタッフの確保、集客、地域との連携などの課題も多く、運営者の数も不足している。

主な取組内容

福岡県内の認知症カフェ運営者や行政、地域包括支援センター、認知症関連団体などを対象とした「福岡県認知症カフェ交流会」を開催し、認知症カフェの現状と課題を参加者で共有した。また、2020年2月には、県内の認知症カフェ運営者を中心に行政関連団体も含め「福岡県認知症カフェ推進協議会」を発足させ、取組を県内各地に普及させる基盤づくりを行った。

工夫した点

交流会では、認知症カフェの先駆者である藤田医科大学の武知一教授の講演に加え、久留米健康くらぶから5年間カフェに取り組んで見えてきた運営上の“6つの課題と提言”を発表した。それにより、認知症カフェ発足の経緯や現在までの変遷、運営方法に関する工夫や課題など、具体的で幅広い内容について参加者と共有することができた。

事業の成果・今後の展開

交流会には定員を超える参加があり、アンケート結果からも好意的な反響がみられ、認知症カフェの理解促進・啓発を行うことができた。今後は、久留米地区での認知症カフェの設置促進を図るとともに、新たに発足した「福岡県認知症カフェ推進協議会」とも連携して、福岡県内での認知症カフェの課題改善、広報促進活動そして、各小学校校区単位での普及拡大に寄与していく予定。

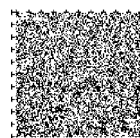
主な経費 スタッフの活動人件費、旅費、会場使用料、講師謝金、通信料など



第1回福岡県認知症カフェ推進協議会



久留米認知症カフェを広める会の定期会合



自由提案型 03

音楽を通じて子ども達に
夢やふるさとへの愛着を育む

協議体 田川の子どもへの音楽体験実施協議体

所 在：田川郡川崎町田原335番地9

〈構成団体と役割〉

◆田川で第九をうたうバイ合唱団
合唱団、ミニオーケストラの派遣◆田川市教育委員会
派遣学校の選定及び連絡調整、イベント開催場所の提供

〈問い合わせ先〉

◆田川で第九をうたうバイ合唱団

住 所 田川郡川崎町田原335番地9

電 話 0947-45-7818 F A X 0947-45-7899

メー ル Midori45hoikuen7818@yahoo.co.jp

HP・SNS等 <https://m.facebook.com/Tagawadedaiku/>

大浦小学校での演奏の様子

課題・背景・目的

小学生や一般市民に、オーケストラによる本格的な音楽に触れてもらうことで、音楽に対する興味・関心を高める。また、ふるさとの歌を学ぶことにより、地元に対する愛着を深めるなど、音楽を愛好する心を育む。

工夫した点

オーケストラや合唱団の協力を得ることで、学校の音楽の授業では実施困難な、本格的な音楽に触れることのできる場を設けることができた。また小学校でのコンサートの際には、オーケストラを360度囲むような配席で鑑賞することで、より身近に音楽を体感できるようにした。

主な取組内容

田川市内の大浦小学校及び大藪小学校において、20名のオーケストラと合唱団によるコンサートを開催し、全校児童を前に「白鳥の湖」や「交響曲第9番」などの有名な曲や、田川発祥の「炭坑節」の演奏・合唱を行った。また一般市民も参加できるコンサートも市民会館で開催し、児童だけでなく多くの田川市民に、本格的な音楽に触れる機会を提供した。

事業の成果・今後の展開

本格的な音楽を間近で体感できる機会を設けることで、参加した児童から「指揮者になりたい」「初めて楽器を近くで見ることができてうれしい」といった感想があるなど、音楽に対する興味・関心を持つきっかけをつくることができた。今後は小学校へのフォローを行うとともに中学校にも活動を拡げ、継続して本格的な音楽に触れられる仕組みづくりを行っていく。

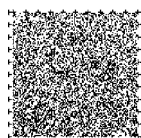
主な経費 コンサート開催に係る人件費・旅費



大藪小学校での演奏の様子



田川市民会館での演奏の様子



自由提案型 04

朝倉子ども祭り2019を通して登校拒否の子ども達に新しい居場所作りを行います!

協議体 朝倉わんぱく子ども応援団

所 在：朝倉市堤612番地

〈構成団体と役割〉

◆朝倉子ども祭り実行委員会

企画、運営、子供たちのサポート

◆朝倉地域振興プロジェクト実行委員会

HPやSNSなどでの広報

〈問い合わせ先〉

◆朝倉子ども祭り実行委員会 (AKSグループ)

HP・SNS等 <https://asakura.love/akf/>

※ホームページ内からお問い合わせください



不登校児を含むダンス・音楽が得意な子ども達が、福岡大学生と一緒にパフォーマンス

課題・背景・目的

福岡における登校拒否の子ども達の数は年々増加傾向にある。効果的と考えられる対策の1つとして、子ども達が安心して過ごすことのできる居場所づくりを行うことが挙げられるが、県内に居場所となる場は少なく、朝倉市も例外ではない。

主な取組内容

2017年から開催している「朝倉子ども祭り」を、登校拒否の子ども達の居場所・受け皿としても活用。登校拒否の子ども達にも他の子ども達と一緒に企画・運営・準備を担ってもらうことで、仲間と協力する楽しみや、自分の得意なことを見つけてもらう。また出展企業に対して祭の主旨をしっかりと伝え、不登校支援の輪の拡大を図った。

工夫した点

朝倉市のフリースクール「よつば」に協力を依頼したことで、登校拒否の子どもに運営に参画してもらうことができた。企画段階から、大人は補助的な役割に徹し、子ども達の自主性を尊重した。また、年の近い大学生が子どもたちのサポートに入ることで、学生ならではのアイデアや体力を最大限に活かしながら、子ども達の気持ちに寄り添った取組とすることができた。

事業の成果・今後の展開

子ども達がイベント開催の中心的役割を担うことで、自ら考え行動する力を身に着けることができた。また当日には多くの来場者があったこともあり、達成感や自己肯定感の向上につながった。また企業も多く出展するなど、支援の輪を広げることができた。今後は、イベント開催に関わったメンバーを中心に、子どもたちが安心して過ごせるコミュニティを形成していく。

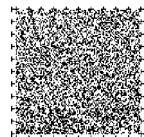
主な経費 音響・照明のリース料、スタッフTシャツ・缶バッチの製作費、人件費など



バルーンアートを近くで見たい!とステージギリギリまで体を乗り出して楽しんでいる子ども達



フリースペースよつばの先生と保護者の販売ブース (小物や子ども達と作ったお菓子の販売、絵が得意な子の作品展示)



自由提案型 05

地域住民が社会貢献に積極的に関わる勇気を培う 町家カフェの設立

協議体 交流会町家休憩処

所 在：小郡市小郡1155番地 特定非営利活動法人文化財保存工学研究室事務所内
(構成団体と役割)

- ◆特定非営利活動法人文化財保存工学研究室
休憩処の企画・運営
- ◆平田家住宅を保存する会
地域への呼びかけ
- ◆はぜの会
休憩処でのおもてなし

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人文化財保存工学研究室(認定NPO法人)
- 住 所 小郡市小郡1155
- 電 話 0942-73-1510 FAX 0942-73-1510
- メー ル bunkazai.hozon@sirius.ocn.ne.jp
- HP・SNS等 <https://ameblo.jp/hiratakehouse>



「青春の歌声喫茶」開催の様様

課題・背景・目的

地域住民は町の活性化への取組に消極的で、なかなか行動に出にくい状況にある。そこで、地域住民が気軽に参加できるイベントを開催することで、互いに交流し、助け合い、刺激を受けて喜びを分かち合うといった充実感を感じてもらう。ひいては、町おこしに参加する住民の増加に繋げていく。

主な取組内容

毎月3回程度、小郡市の指定文化財である「平田家住宅」の主屋において、誰でも気軽に参加できるイベント「町家休憩処」を開催。緑茶や珈琲、お菓子を楽しみながら参加できる、茶道や地域の歴史に関するミニ講話や、牛乳パックの座椅子づくりや折り紙教室などの体験活動を行った。

工夫した点

「平田家住宅」を会場とすることで、普段は味わえない江戸期の雰囲気の中での体験活動を提供するとともに、地域における文化財の認知度向上にも繋げることができた。また、地域住民から構成される「平田家住宅を保存する会」「はぜの会」と連携することで、住民ニーズをくみとりながらの企画・広報が可能となった。

事業の成果・今後の展開

多くの地域住民が町家休憩処に参加し、地域での活動や文化財に興味・関心を持ってもらえるきっかけを作ることができた。今後は、町家休憩処に参加者やスタッフの増加を目指すとともに、平田家住宅の活用と地域の活性化に向けて取組を継続していく。更に小学生を対象とした体験学習を取り入れて、小学生ガイドを育てる。

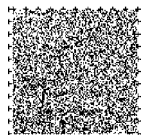
主な経費 スタッフ人件費、講師謝金、チラシ製作費、消耗品購入費など



座敷にて抹茶と菓子で参加者をおもてなし



座椅子や折り紙などのものづくり教室



自由提案型 06

楽しく学んで一緒に育つ!わくわくたまご

協議体 shinguわくわくたまご

所 在：糟屋郡新宮町緑ヶ浜2-15-7
 〈構成団体と役割〉

- ◆rainbow house
企画、運営、会計
- ◆福岡わくわく体験クラブ
工作体験活動における指導、当日運営支援
- ◆夢♡新宮
広報、当日運営支援

〈問い合わせ先〉

- ◆shinguわくわくたまご
住 所 糟屋郡新宮町緑ヶ浜2-15-7
電 話 090-7294-6241
メー ル iledespins2006@yahoo.co.jp



恐竜のたまご

課題・背景・目的

新宮町では急激な人口増加に伴い、子育て世代の転入も多い。しかし、地域との繋がりの不足から、子育てに孤立を感じている人も多く見受けられる。また、子ども達が思い切り遊べる場所も少ない。そこで、親子の触れ合いを大切にしながら、地域と家庭が連携して子ども達を見守り育てていける環境づくりを進めていく必要がある。

主な取組内容

親子が楽しく遊び、一緒に活動できる工作やミニ運動会、サイエンスショーを行い、また地域と家庭が触れ合うきっかけ作りとしてのふれあい食堂を開催した。親子が触れ合い一緒に考えて活動に取り組む機会、地域も連携して子ども達を見守り育てていけるような関係づくりを一步前進させる活動を行った。

工夫した点

工作では持ち帰り用に多めに材料を用意したり、持ち帰ってからも遊べるものを作ることで、イベント会場だけでなく家庭での親子の交流も促すようにした。また、地域で活動実績のある団体同士が協働することで、地域の課題に寄り添った事業となり、また効果的な広報を実施することができた。

事業の成果・今後の展開

全5回のイベントにのべ300組を超える多くの親子が参加し、親子のつながりの場、地域とのつながりの場を創出することができた。今後は、今回できた地域団体同士での繋がりを深めるとともに、行政との連携も視野に入れ、子育てを楽しむ保護者や、のびのび遊ぶ子どもが増える新宮町を目指して、活動を継続する。

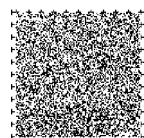
主な経費 サイエンスショー委託費、スタッフ人件費、材料購入費など



遊びのひろば&ミニうんどうかい



作ってあそぼう



自由提案型 07

発達障害等の方のメンタルヘルス不調による 休業や離職を防ぐ事業

協議体 発達障害等の方の職場におけるメンタルヘルスサポート隊

所 在：北九州市八幡西区皇后崎町6-6

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人キャリアサポートクラブ
企画運営、講師招聘、企業訪問
- ◆学校法人国際学園
広報・企画に関する助言、チラシ掲示等での広報

〈問い合わせ先〉

◆一般社団法人キャリアサポートクラブ

住 所 北九州市八幡西区皇后崎町6-6

電 話 093-776-0318 FAX 093-691-4612

メール syokugyosien@gmail.com

HP・SNS等 <https://career-support.club/>



メンタルヘルス講演会での講師による講話の様子

課題・背景・目的

発達障がいのある人やその疑いのある人、精神疾患のある人等は、就労を継続していく上で、仕事上のトラブルや対人関係等でメンタルヘルスの不調をきたしやすい傾向があり、休業や退職するケースが多く報告されている。一方、中小企業の多くはメンタルヘルスに関する制度や専門家の配置がなく、未然防止が難しい状況。

主な取組内容

企業や事業所、行政等の管理者や担当者を対象に、発達障がい等の方のメンタルヘルス不調による休業や離職等を防ぐための取組に関する研修会を開催。メンタルヘルス不調を抱えている人への初期対応法のレクチャーや、支援機関などの情報提供を行い、企業等が当事者を雇用する際の不安軽減を図った。また当事者向けの研修会も開催し、ストレスマネジメント方法についての演習を実施した。

主な経費 講師謝金、スタッフの人件費・旅費、リーフレット作製費など

工夫した点

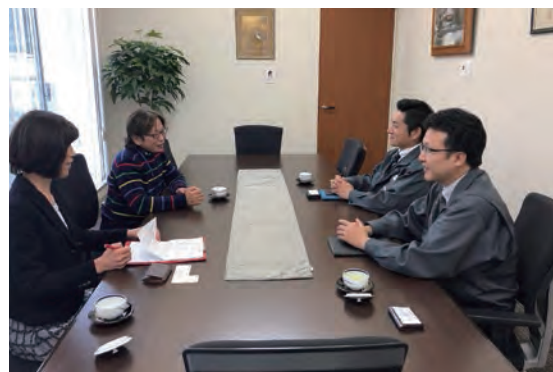
より多くの人に参加してもらうため、実際に企業を訪問して参加を呼び掛けた。また、企業担当者の抱える悩みや不安に寄り添った研修にするため、事前・事後のアンケートを行い、研修内容に反映した。さらに、次年度以降の新規の相談につなげるため、成果報告リーフレットを作成・配布したほか、ホームページでも配布案内を行っている。

事業の成果・今後の展開

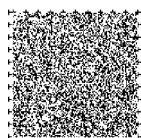
企業等の管理者や担当者が、対象となる労働者の特性を把握し、身近にできる声掛けや傾聴、リスク評価など、メンタルヘルス不調への初期対応方法について知ることによって、休業者や退職者を出しにくい環境づくりの一助となった。今後はリーフレットを活用し、企業等の理解を深めるとともに、訪問相談や研修会を継続実施する。



メンタルヘルス講演会での参加者同士での演習の様子



訪問相談（発達障がい等の方のメンタルヘルス不調に関して、企業の管理責任者より聞き取り）



自由提案型 08

糸島暮らしと仕事の コミュニケーション&スキルアップ講座

協議体 糸島市ママトコロボ協議体

所 在：糸島市志摩初

〈構成団体と役割〉

◆一般社団法人ママトコロボ

企画運営、広報、講座終了後の参加者のネットワーク形成

◆糸島市商工観光課

企画、広報、糸島市内の求人者の最新情報の共有

〈問い合わせ先〉

◆一般社団法人ママトコロボ

住 所 糸島市志摩初

メール mamatocolab@gmail.com

HP・SNS等 <https://mamatocolab.com/>



グループトークでは、毎回、笑いあり、深いうなずきありで盛り上がりました

課題・背景・目的

出産や子育てを機に離職した子育て期の女性の多くが、キャリアのブランクや子育てと仕事の両立に対する不安から再就労に一步踏み出せない現状がある。糸島市では女性向けの就労支援として実践的な講座を開催しているが、再び働くことへの不安から受講を躊躇する人も少なくない。不安が漠然としているため、行動に出ることができない人もいます。

主な取組内容

糸島市内の仕事を始めたいと考えている子育て期の女性を対象に、「糸島暮らしと仕事のコミュニケーション&スキルアップ講座」を開催し、コミュニケーションスキルや、子育て経験を価値に変える方法、キャリアプランづくりに向けた税と社会保険に関する講座のほか、実際に糸島で、さまざまなスタイルで働く子育て期女性との座談会を実施。

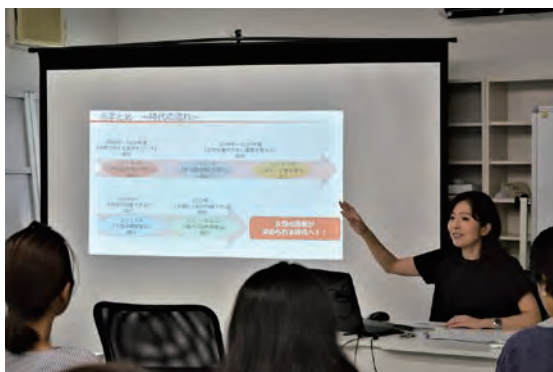
工夫した点

子育て中に培ったスキルなど、受講生が当たり前だと思っているスキルが仕事にも役立つ「ポータブルスキル」だと気づかせ、強化する講座とすることで、受講生が仕事復帰に対する自信をつけられるようにした。また講座中には、受講生同士で話し合う時間も設けることで、講座終了後のネットワーク形成につながるような工夫を行った。

事業の成果・今後の展開

時間配分や物事の優先順位の付け方など、仕事でも活かせるスキルを子育て経験から得ていることを受講生に気づいてもらえ、またテレワークなどの様々な働き方を知ることで、暮らしや子育てを含めた納得のいく働き方を選ぶことを後押しすることができた。今後も受講生を中心としたネットワークを維持するとともに、勉強会や座談会を定期的で開催予定。

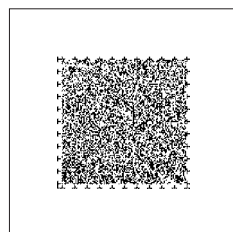
主な経費 講師謝金、託児スタッフ謝金、スタッフの人件費・旅費、チラシデザイン費など



講師から、社会保険について学ぶとともに、自分の納得のいく人生を送るようエールをもらいました



正社員のリモートワーク、フリーランスなど様々な働き方を身近に感じました



「みんなの学校・みんなの社会 ～みんなちがってみんなイイ!」

協議体 WarmBlueIIZUKA

所 在：飯塚市太郎丸

〈構成団体と役割〉

- ◆WarmBlueIIZUKA 企画運営、実施
- ◆株式会社NOTE 広報誌への掲載
- ◆株式会社Tommy's New Partner
事業全体への助言
- ◆飯塚市教育委員会 広報協力

〈問い合わせ先〉

◆WarmBlueIIZUKA

住 所 飯塚市太郎丸

電 話 090-9651-7376

メール kotonoha.st@gmail.com

HP・SNS等 Facebookグループ WarmBlueIIZUKA



8月9日嘉穂劇場にて

課題・背景・目的

飯塚市では、ここ数年で児童発達支援事業所が急増し、発達障がいに関する支援者の数も増えているが、支援者が十分に学べる機会はまだまだ少ない。また、教育・医療・福祉の横の連携や、就学前から就学中、就労までの各関係機関の連携も未熟である。そこで、支援者や保護者が学べる機会の提供と、関係機関の連携強化を図る仕組み作りが必要。

主な取組内容

飯塚市内において、発達障がいの保護者や教育・医療・福祉関係者、地域住民を対象に、今、教育界で注目を集めている3人(木村泰子氏、工藤勇一氏、齋藤真人氏)を招き、学校の在り方、教育の在り方、そこへの社会の関わり方などをテーマにトークセッションによる講演会を開催。

工夫した点

できるだけ多くの人に企画運営に主体的に関わってもらえるよう、運営スタッフをSNSで公募した。また、教育現場や企業とも連携したことで、小中学校へのチラシ配布や飯塚市内店舗でのポスター掲示など、効果的な広報を行うことが出来た。

事業の成果・今後の展開

講演会には、当事者や教育・医療・福祉関係者、行政職員など様々な方が参加し、「自分ができることをまず考えていきたい」といった声があがるなど、今後の児童支援のあり方を参加者が考えるきっかけとすることができた。今後も各関係者との連携を深めながら、講演会や勉強会などを実施していく。

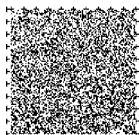
主な経費 講師謝金、旅費、パンフレット・フライヤー作成費、会場使用料など



講師の先生方(左から:千代田区立麹町中学校校長 工藤勇一氏・大阪府立大空小学校初代校長 木村泰子氏・立花高等学校校長 齋藤真人氏)



600名を超える皆様にご参加頂きました



自由提案型 10

食を通して広げよう健康の和 聞こえる人と聞こえない人の輪

協議体 食と健康の和 協議体

所 在：筑後市大字馬間田157-4

〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人栄養ケア・ちっこ
企画、運営、献立作成、調理指導、個別栄養相談
- ◆久留米信愛短期大学
企画、講話・展示説明、調理指導、個別栄養相談、大学生ボランティアの指導
- ◆柳川市聴覚障害者協会
企画、コミュニケーションアドバイス、広報・啓発

〈問い合わせ先〉

◆食と健康の和 協議体

メール diet@eiyou-care-chiggo.info

HP・SNS等 http://www.eiyou-care-chiggo.info



要約筆記を交え、料理の説明

課題・背景・目的

聴覚に障がいのある人は、通訳依頼や移動を考えると通院や健診をためらってしまう。結果として疾病が重症化する可能性が高くなる。一方で、食と健康が深い関係にあることは知られているが、情報が氾濫しているため、正しい情報を選択できるように、障がいがある人もない人も健康を維持していくための食育を学ぶ機会を設ける必要がある。

主な取組内容

聴覚に障がいがある人とない人の両方を対象に、減塩をテーマとした料理教室を柳川市と久留米市で開催。疾病の重症化防止や生活習慣病の予防に向け、減塩の必要性や栄養成分表示の見方などについて学んでもらった後、減塩でもおいしく食べられる献立を全員で調理した。また、料理教室の後には個別栄養相談の時間を設けた。

工夫した点

料理教室では、聴覚に障がいがある人とない人が同じ班になるようにし、また手話・要約筆記者にも参加してもらうことで、参加者同士の交流を図った。また、クイズや展示を活用したり、各班に栄養士を配置することで、調理中の質問にも対応できるようにするなど、参加者の会話を促し、楽しみながら学べるような工夫を行った。

事業の成果・今後の展開

料理教室では、参加者から減塩に関する多くの質問があり、また、薄味でもおいしい、また参加したいといった感想が寄せられるなど、食育について学んでもらうだけでなく、楽しく参加してもらうことができた。今後も同様の料理教室を開催し、聴覚に障がいがある人の疾病予防・重症化防止の取組を継続予定。

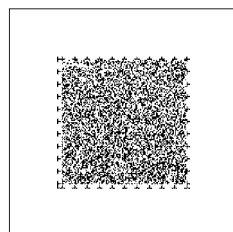
主な経費 スタッフ・手話・要約筆記者の件数費、旅費、資料作成費、会場賃借料など



手話付きで学生が減塩クイズの回答を説明



個別栄養相談。手話付き



自由提案型 11

小学校における生物多様性の保全に関する環境教育事業

協議体 ふくおか環境教育推進プロジェクト

所在：太宰府市国分5-23-32

〈構成団体と役割〉

- ◆一般社団法人まほろば自然学校
環境教育に関する企画運営・講師
- ◆NPO法人ミティエイド
事務局、施策化に向けた提言・支援
- ◆株式会社YOUI
環境教育実施の効果検証、施策化に向けた提言・支援

〈問い合わせ先〉

- ◆一般社団法人まほろば自然学校
住所 太宰府市国分5丁目23-32
電話 092-922-1029 FAX 092-922-1029
メール s2_iwaiwa@csf.ne.jp
HP・SNS等 <https://www.facebook.com/mahorobird2005/>



これ、何だ？

課題・背景・目的

児童に対する生物多様性の保全に関する環境教育は、各自治体による観察会や体験講座、小学校の理科や総合学習などの授業で行われているが、一過性のイベントで終わってしまったり、教員の多忙によりカリキュラム以外の環境教育にまで取り組む余裕がないといった現状がある。

主な取組内容

筑紫野市、春日市、太宰府市、大野城市の11の小学校において、授業で実際に生き物に触ったり、休み時間を利用した展示をするなど、現場のニーズや実情にあわせた環境教育をトライアル的に実施。実施後にはアンケート等による効果検証を行い、各市の環境施策担当課による施策立案に向けた提言・支援を行った。

工夫した点

一過性のイベントで終わらないように、事前に各市の担当課を訪問し、施策化まで含めた事業の目的、流れを説明したうえで、トライアルの環境教育を実施した。また、現場のニーズや実情に合わせた複数のプログラムを用意したことで、多忙な小学校教諭にも前向きにトライアルに参加してもらうことができた。

事業の成果・今後の展開

トライアルに参加した市では、いずれも何らかの財源確保を具体的に検討しており、事業の継続・施策化に向けた動きが生まれている。今後は、この取組を一つのモデルケースとし、県内他市町村へ、生物多様性の保全に関する環境教育の施策化を働き掛けていく。

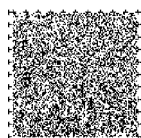
主な経費 スタッフの人件費、旅費、環境教育用の材料購入費など



さわってごらん



何の仲間かな



自由提案型 12

おもてなしキッズの煎茶による茶会

協議体 お茶のおもてなしキッズ育成プロジェクト

所 在：福岡市南区柏原6丁目

〈構成団体と役割〉

◆特定非営利活動法人Wing-Wing
企画運営、広報◆一般社団法人お茶結びプロジェクト
茶育指導、茶会の企画・運営

〈問い合わせ先〉

◆特定非営利活動法人Wing-Wing

電話 070-5278-4204 FAX 092-510-7255

メール info@wing-wing.org

HP・SNS等 http://wing-wing.org



煎茶の淹れ方を学びました

課題・背景・目的

飲料の多様化や緑茶ペットボトルの普及により、急須を利用する家庭が急速に減り、家庭からお茶淹れの文化が無くなりつつある。国際化に向かう現代において、次世代を担う子どもたちが自国の文化を身に着けることは国際コミュニケーションの最大の武器となるが、それに取り組む子どもや青少年が少ない。

主な取組内容

小学生から中学生を対象に、茶と食育の融合を図り、和の作法を身につけ健やかな心を養う「茶育教室」を開催。煎茶のお手前や和室での振る舞い方など、茶会に必要な様々な所作・作法を学ぶ。全3回の教室の後、地域住民をお客として招待し、子ども達が福岡県産の煎茶でもてなす「こども茶会」を開催。

工夫した点

テーブルでの作法も学べるようにしたことで、和室のない家庭でも自宅でおもてなしの練習ができるようにした。また、茶育教室や子ども茶会で福岡県産の八女茶を使用することで、日本の伝統文化を学ぶと同時に、県産品の普及・啓発にも繋げた。

事業の成果・今後の展開

参加した子どもの保護者から「子どもが家庭で率先してお茶を淹れるようになった」との声が聞かれるなど、お茶淹れを通して家族間の交流が生まれ、お茶淹れの文化を普及するきっかけとなった。今後も茶育教室を開催し、継続的に「お茶のおもてなしキッズ」を育成していく。

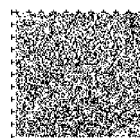
主な経費 講師謝金、会場使用・設営費、チラシ製作費、スタッフ人件費など



こども茶会を2日間開催



こども茶会は2日間で約300名が来場



テーマ型（災害） 01

朝倉市黒川地区の農村復興支援事業

協議体 朝倉市黒川地区農村復興支援センター

所 在：八女市黒木町笠原9836-1

〈構成団体と役割〉

◆特定非営利活動法人山村塾

事務局、ボランティア事業への助言
黒川故郷米プロジェクトへの助言

◆黒川復興プロジェクト

ボランティア受付、活動コーディネート、地域内の調整

◆九州大学大学院芸術工学研究院環境デザイン部門朝廣研究室

事業全体への助言、外部協力者との調整・連携

〈問い合わせ先〉

◆黒川復興プロジェクト

住 所 朝倉市黒川1537-1 JA筑前あさくら高木支店跡

電 話 070-7660-1465

メー ル asakura.fukko@gmail.com

HP・SNS等 <https://asakurafukko.wixsite.com/kurogawafukko>

草刈機安全講習

課題・背景・目的

平成29年7月九州北部豪雨により大きな被害を受けた朝倉市黒川地区では、住民の多くが集落外で生活しており、かつて行われていた草刈や道路管理等の共同作業の継続が困難な状況にある。黒川地区が農村として復興するためには、ボランティアによる支援や農業の振興が必要である。

主な取組内容

農地の荒廃防止や集落の景観維持のため、ボランティア、住民らとともに、月1回程度の草刈作業やコスモスの種植えなどの景観作物栽培、伝統祭事の準備に協力するなどした。また、黒川地区の米づくり復興を目指し、黒川地区でとれた米をブランド化し、消費者に直販する「黒川故郷米プロジェクト」の運営サポートを行った。

工夫した点

平成24年の九州北部豪雨における復興支援の経験を活かし、継続的で無理のない復興支援活動を行うことができた。また農地復旧や景観保全だけでなく、地域の祭事の準備にもボランティアが参加することで、災害復旧にとどまらず、人と人との関わりを形成するきっかけとすることができた。

事業の成果・今後の展開

のべ98名という多くのボランティアが参加したことで、集落の景観が維持・改善されるとともに、被災集落の住民の復興への気持ちを後押しすることができた。また黒川故郷米プロジェクトへのサポートにより、営農意欲の向上と集落内の連携を深めることができた。今後も活動を継続し、集落を離れた住民との連携も目指していく。

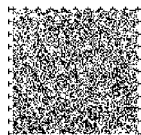
主な経費 スタッフ人件費、草刈機リース費、消耗品費など



景観作物栽培（コスモス畑の除草）



草刈りボランティア



テーマ型（災害） 02

朝倉市共同ボランティアセンター設立運営事業

協議体 朝倉市民活動センターBun³

所 在：朝倉市杷木寒水158-3

〈構成団体と役割〉

- ◆地元応援隊「ひまわり」
行政が対応しにくい個人のニーズを集約・支援の実施
- ◆久喜宮地域コミュニティ協議会
場所の手配
- ◆朝倉市ふるさと課
被災者の問題の集約、情報の統括

〈問い合わせ先〉

◆杷木ベース

住 所 朝倉市杷木寒水160
電 話 080-3372-0075 FAX 092-845-2838
メー ル hakibase0705@gmail.com
HP・SNS等 <https://hakibase.wixsite.com/mysite>



引越ボランティア

課題・背景・目的

平成29年九州北部豪雨及び平成30年7月豪雨で被災した朝倉市では、農地の復旧や住宅の立て直しなど、生活環境の復旧にまだ時間がかかる。また、住み慣れた土地を離れた住民にとって、定期的集まり、語り合う場や、相談できる場所が必要。

主な取組内容

協議体で設立したボランティアセンター「杷木ベース」にて、農地や家屋の土砂撤去、農作物の販売支援など、被災者の困りごとの相談を受け、支援を行った。また、被災者や支援者、地元住民の集いの場「かたらんね杷木」や、活動報告や今後の方針会議を行う「はきトーーク!」、餅つきイベントなども実施。

工夫した点

今後また災害が起こった時に、それぞれの地域のリーダーとなれる人材を育成するため、できるだけ多くの企業にボランティアとして参加してもらい、ノウハウを蓄積してもらった。また、新たな取組を始めようとする地域住民に対して、協議体が企画や資金調達などのノウハウ提供を行うなど、杷木地域内の支援者育成にも取り組んでいる。

事業の成果・今後の展開

のべ2,768名のボランティア、15の企業が参加し、住民の生活環境の復旧や心のケアを行うことができたほか、活動を契機として、農地をなくされた方と地域有志の方が一緒に農作物を育てる「ふれあい農園」を新たに開始することができた。今後は、活動を通じて構築した朝倉市内外とのネットワークをより強固なものにしながら、活動を継続する。

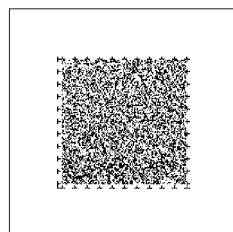
主な経費 スタッフの旅費・人件費、土砂撤去用の消耗品費、会場使用料など



かたらんね杷木



餅つき大会



テーマ型（災害）03

学校に行きづらい子・社会に出づらい人の自立支援

協議体 あさくら自立支援協議会

所 在：朝倉市杷木久喜宮1508-2
 〈構成団体と役割〉

- ◆特定非営利活動法人 フリースペース よつば
 相談支援・学習支援・体験活動・研修会の実施
- ◆久喜宮地域コミュニティ協議会
 広報・啓発活動、施設提供
- ◆東峰村教育委員会
 施設・設備の提供

〈問い合わせ先〉

- ◆特定非営利活動法人 フリースペース よつば
- 住 所 朝倉市杷木久喜宮1085-2
- 電 話 0946-62-1085 FAX 0946-62-1085
- メー ル tekohira@yahoo.co.jp



新設された東峰村喜楽来館での学習支援風景

課題・背景・目的

朝倉市や東峰村には、災害後、学校に行きづらく、適応指導教室やフリースクールとも出会っていないため、ひとりで悩み続けている児童・生徒や家族が多くいる。そのため、まずは学校に行きづらい現状を正しく理解し、自立できるような力をつけていこう支援を行う。

主な取組内容

朝倉市及び東峰村において、毎日通えるフリースクールを開設し、被災児童・生徒の孤立化を防ぐための居場所作りや、自己肯定感を養うための学習支援・体験活動を実施。あわせて、保護者や家族の個別の悩みに応じる相談支援を行った。また、当事者や家族、関係者が、学校に行きづらいことを正しく理解するための学習会を年12回開催。

工夫した点

東峰村で初めてフリースクールを運営するにあたり、事前に教育委員会や学校、役場と協議を行ったことで、「出席扱い」が可能となり、地域や保護者との調整も円滑に実施することができた。また、地域で支えあう仕組み作りのため、当事者への支援だけでなく、現場の教職員や地域の人に対しても啓発活動や情報交換を行った。

事業の成果・今後の展開

不登校だった児童・生徒がフリースクールに通い始め、保護者ともに前向きになり、自立に向けた一歩を踏み出す機会を作ることができた。次年度以降、東峰村においては、地域住民と東峰村教育委員会の協働による事業継続が決まっているため、要請に応じて相談・学習支援に協力する。朝倉市においては引き続き、現体制での支援を継続する。

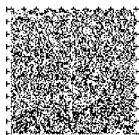
主な経費 人件費、講師謝金、旅費、消耗品費、通信運搬費など



福大生も参加した東峰村・朝倉市の子どもたち合同での料理教室



悩みを抱える保護者が毎回新たに参加する学習会



テーマ型（災害） 04

朝倉・頼田仮設と近郊みなし仮設入居者を見まもり支援する

協議体 朝倉・頼田仮設を見まもり隊

所 在：朝倉市大庭4344

〈構成団体と役割〉

- ◆朝倉市ボランティア連絡協議会
食事作り、みまもり活動、イベント企画・運営
- ◆グリーンコープふくおか
食材・調理場・会議室の提供、イベント支援

〈問い合わせ先〉

◆朝倉・頼田仮設を見まもり隊

住 所 朝倉市大庭4344
電 話 0946-52-1414



いきいきサロンでの昼食やおやつ作りは皆さんの手作り

課題・背景・目的

仮設・みなし仮設の入居者の多くは、一人または二人暮らしの高齢者であり、仮設住宅からの退去後の生活再建をはじめ、転居先での人間関係にも大きな不安を抱えている。そこで、新たな居住地での孤立化、不安解消に努め、今後の生活を少しでも安心して暮らしていけるよう見守っていく。

主な取組内容

仮設住宅集会場において、週1回の栄養バランスを考慮した献立による食事提供、月2回の体力・健康維持と被災者同士の交流の場としてのサロン活動を実施。仮設住宅退去時には引越支援も行い、その後は月1回のランチ交流会や訪問によるみまもり活動を行った。また、情報誌を発行し、被災者と住民に対して支援情報等の提供を行った。

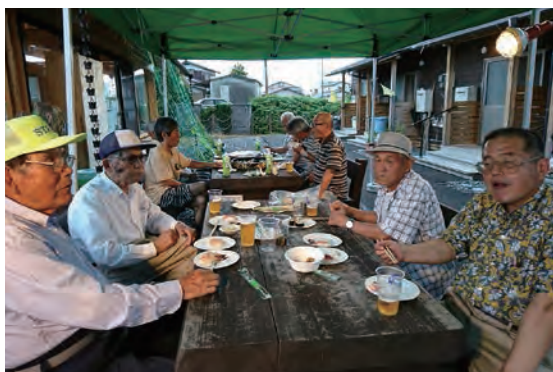
工夫した点

毎月の関係者会議に加え、支援中にも被災された方々の意向をしっかりと確認しながら事業を行うことで、支援するだけでなく、住民も主体的に関わることのできる事業とした。また仮設住宅退去後には、転居先の公営住宅で他の地域から転居してきた人も対象とした交流会を開催し、公営住宅全体の新たなコミュニティ形成支援も行った。

事業の成果・今後の展開

仮設住宅退去前から継続して活動を行い、被災した方の新しい環境での不安の軽減や孤立化を防止するとともに、転居先での新たなコミュニティづくりへの支援活動を行うことができた。今後も新たな生活が安定するまでに時間を要することが予想されるため、行政の関係機関などとも連携し引き続き、みまもり活動を行っていく。

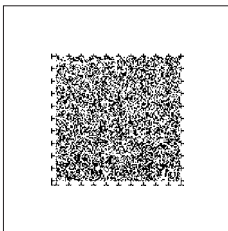
主な経費 謝金、人件費、旅費、会場使用料など



イベントによっては男性の参加も多くなります



「甘木朝倉食堂組合」のご協力で、うどん、やきとり、握り寿司などを堪能



テーマ型（災害） 05

東峰村農業復興支援プロジェクト

協議体 東峰村農援隊

所 在：東峰村大字小石原鼓3492-1
 〈構成団体と役割〉

- ◆東峰村元気プロジェクト
活動の企画・運営、農家との作業調整、ボランティアの統率
- ◆有限会社つづみの里
農家及びボランティアからの問い合わせ対応
集合場所・休憩施設の提供
- ◆東峰村社会福祉協議会
ボランティアへの案内、資機材の提供

〈問い合わせ先〉

- ◆有限会社つづみの里
住 所 東峰村大字小石原鼓3492-1
電 話 0946-74-2288
HP・SNS等 <https://www.facebook.com/tohomurasaigaishien/>

課題・背景・目的

東峰村には、平成29年九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨災害により、耕作ができない農地がまだ多く残っている。行政による災害復旧事業に該当しない箇所について、自力での復旧ができずに耕作放棄地となったままの農地が景観に影響を及ぼしている。また、復旧を終えた農地でも担い手がおらず、農家の離農が進みつつある。

主な取組内容

ボランティアを募り、農地や水路に流入した土砂や瓦礫、流木等の除去・搬出作業などの復旧支援や、耕作放棄地となっている農地にひまわり等の景観植物を植栽する景観改善、高齢農家や担い手のいない農家への収穫支援等の援農活動を実施。

主な経費 消耗品費、人件費、機材リース費、チラシ製作費など



令和元年8月末の豪雨で埋まった水路の土砂出し作業を農家さんたちと協働で行いました

工夫した点

農地復旧支援だけでなく、復旧した農地で収穫できた作物を直売所で販売するまでの流れを作り、少額ながらも農家の収入増にも繋げることができた。また、援農体制を継続させる仕組みとして、景観植物の加工についても活動に取り入れ、商品化も視野に入れた取組を行った。

事業の成果・今後の展開

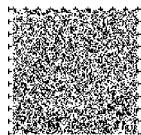
のべ約100人のボランティアによる農地復旧、景観改善により、農家だけではなく周辺住民のストレス緩和、そして東峰村の復興PRに繋げることができた。今後は、対象範囲や協力農家を増やしながら活動を継続するとともに、交流・体験をベースに高齢農家等への援農活動が実施できる体制づくりを行っていく予定。



災害後にヒエが大量発生した高齢農家さんの田んぼの作業支援活動を行いました



景観保全活動として行ったひまわり畑ではたくさんの花が咲きました



テーマ型（災害） 06

被災した子どもからお年寄りまで、
みんなの心の居場所になれるプレーパーク事業

協議体 すくすくきずなプロジェクト

所 在：朝倉市甘木627-9

〈構成団体と役割〉

◆すくすく朝倉の未来隊！

プレーパークの企画・実施

◆朝倉災害母子支援センターきずな

ケアが必要な親子と専門家（機関）のマッチング

◆福岡学生災害支援実行委員会

プレーパークの企画・実施

〈問い合わせ先〉

◆すくすく朝倉の未来隊！

住 所 朝倉市甘木627-9

電 話 080-2714-6175

メー ル chiharu560511@outlook.jp

HP・SNS等 Facebook(すくすく朝倉の未来隊!『朝倉市にプレーパークを!』)



小川で水遊び!生き物もたくさんいるね～

課題・背景・目的

災害により心に傷を負った子ども達は、つらかったことやショックなことを言葉で説明できないことから、ストレスをためてしまう。子どもの心の傷は遊びでしか癒されず、子どもは「ごっこあそび」などをしながら、現実起きたことを受け止めたり、心の整理をすることができる。子どもと大人と一緒に笑って楽しめる居場所作りを通じて、子ども達の心のケアを行う。

主な取組内容

毎月1回朝倉市内においてプレーパークを開催。木登りや川遊びなど自然を活用した遊びのほか、コマや段ボール、端材、ロープなど、遊びが生まれそうな道具や材料を準備し、遊び場を実施。また、親子で学べる防災講座を行い、子どもと一緒に災害のことについて考える機会を設けた。

工夫した点

プレーパーク実施に伴い、ケアが必要な親子を発見し、必要に応じて専門家に繋げた。また、年齢の近い大学生がプレーパークに企画から参加することで、子ども達が思い切り遊びを楽しむ環境を整えることができた。

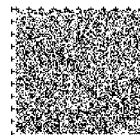
事業の成果・今後の展開

朝倉市内外からのべ1,200人を超える親子がプレーパークに参加し、子ども達が元気になるだけでなく、その姿を見た大人達も元気になるきっかけを作ることができた。今後は、プレーパークの必要性や方向性を考える講座も実施するなど、取組を継続しながら、遊び場としてだけでなく子ども達、そして大人達も楽しめる居場所としてのプレーパークを朝倉市に定着させていく。

主な経費 人件費、旅費、会場使用料、チラシ・ポスター材料費など

人間エレベーター。ロープと滑車で上へ上へ・・・
高いところからの景色はどうか？

コマあそび。子どももおとなも、回ったら大喜び♪



危険箇所仮修復及び地域防災減災講話会

協議体 消防支援プロジェクト

所 在：朝倉市杷木寒水158-3

〈構成団体と役割〉

◆ALL救衆DISASTER RELIEF CREW

仮修復作業・防災減災講話会の実施

◆杷木復興支援ベース

住民のニーズ調査、相談窓口、市役所との連携

〈問い合わせ先〉

◆ALL救衆DISASTER RELIEF CREW

住 所 朝倉市杷木寒水158-3

電 話 080-3372-0075

メー ル all.kyushu.0705@gmail.com

HP・SNS等 Facebook(ALL 救衆)



防災講和

課題・背景・目的

朝倉市には、平成29年九州北部豪雨及び平成30年西日本豪雨により、崩れた法面がいまだ多く存在しており、特に住宅の裏等では、二次災害の危険もあり、住民の不安を取り除き安心して普段の生活が送れるよう、至急仮修復を行う必要がある。また、今後も災害が発生する可能性は高いため、仮修復で安心するのではなく、地域住民自身の災害への自助・共助の意識の備えが必要である。

主な取組内容

県内外から消防士の有志を募り、地域住民からの希望に応じて、法面の崩れが起きている箇所をブルーシートで被う仮修復作業や劣化したシートの交換・修繕を行った。また、地域住民を対象に土嚢の作り方や応急手当など、訓練も含めた地域防災減災講話会を開催した。

工夫した点

地域住民の相談窓口としての機能も担う、杷木ベースを活動拠点とすることで、住民ニーズに沿った活動を行うことができた。また、危険箇所での作業は日頃から高所での訓練を積んでいる九州各地の消防士有志が担い、法面保護製品の販売を行う企業から資機材の提供・協力を得たことで、効率的に作業を行うことができた。

事業の成果・今後の展開

のべ120名の消防士有志により、計10カ所の仮修復作業を行い、地域住民の生活の安全性を向上させることができた。また地域防災減災講話会には約80名が参加し、災害発生時には自分で自身の命を守るという自助意識を向上させることができた。今後も地域住民のニーズに応じた活動を継続していく。

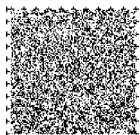
主な経費 旅費、仮修復用の資機材費など



法面保護活動



法面保護活動内にて試験資器材の仕様確認



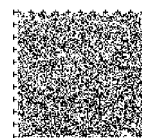
認定・特例認定NPO法人のご紹介

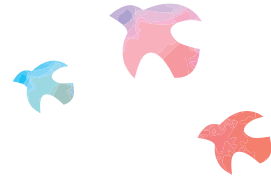
一定の要件を満たしていると所轄庁が認めたNPO法人に対し、様々な税制上の優遇措置を与え、NPO法人の活動を税制面で応援する認定・特例認定NPO法人制度があります。また、認定NPO法人等に対して寄附を行った場合、寄附をした方（個人、企業等）は様々な税制上の優遇措置を受けることができます。詳しくは、福岡県NPO・ボランティアセンターホームページ「NPOと寄附」(https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/npo_supports/index)をご覧ください。

福岡県内に主たる事務所を有する認定・特例認定NPO法人一覧

認定・特例認定NPO法人名	主たる事務所の所在地	各団体のホームページ
日本セラピューティック・ケア協会	太宰府市五条2-6-1	http://therapy-care.net/
九州補助犬協会	糸島市志摩井田原76-20	https://www.hojo.or.jp/
エコけん	古賀市天神1-19-21	http://www.npo-ecoken.sakura.ne.jp/
日本車椅子レクダンス協会	久留米市梅満町1190-1-103	https://www.wsda.jp/
ソルト・パヤタス	糟屋郡篠栗町大字篠栗3686-1	http://www.saltpayatas.com/
ロシナンテス	北九州市小倉北区古船場町1-35 北九州市立商工貿易会館7F	https://www.rocinantes.org/
嘉穂劇場	飯塚市飯塚5-23	http://kahogekijyo.com/
なおみの会	直方市山部751-31	http://naominokai.org/
ワンストップリーガルネット	久留米市東櫛原町1313-2	http://onestop-legalnet.org/
文化財保存工学研究室	小郡市小郡1155	https://ameblo.jp/hiratakehouse/
山村塾（※）	八女市黒木町笠原9836-1	https://sansonjuku.com/
抱樸	北九州市八幡東区荒生田2-1-32	http://www.houboku.net/
響ホール室内合奏団	北九州市八幡東区西本町3-4-3-201	https://www.hibikistrings.jp/
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	福岡市早良区百道浜3-4-11-103	https://www.saccessnet.com/
チャイルドラインもしもしキモチ	福岡市中央区警固1-13-15-404	https://moshi2.jp/
SOS子どもの村JAPAN	福岡市中央区赤坂1-3-14 ブランシェ赤坂3F	https://www.sosjapan.org/
ニコちゃんの会	福岡市城南区樋井川6-37-8	http://www.nicochan.jp/
地域福祉を支える会そよかぜ	福岡市博多区銀天町1-6-12	http://www.nposoyokaze.com/
障がい者より良い暮らしネット	福岡市中央区荒戸3-3-39 福岡市市民福祉プラザ4F	http://yoriyoikurasi.net/
ハッピーマンマ	福岡市南区野多目1-12-15-203	https://www.congre.co.jp/happymamma/
にこスマ九州	福岡市南区塩原4-3-6-101	https://nicosuma.net/
エデュケーションエーキューブ	福岡市西区西都2-1-31-1303	http://education-a3.net/
エスタスカーサ	福岡市南区弥永2-17-1	https://estasu.org/
未来創造ハピネス	福岡市中央区薬院2-5-42-201	http://miraisouzouhappiness.org/
アカツキ	福岡市博多区博多駅東1-4-1-505	https://aka-tsuki.org/
緩和ケア支援センターコミュニティ	福岡市西区下山門2-9-6	http://www.kanwa-care.jp/
ピーサポネット	福岡市東区箱崎1-10-7-2F	https://www.p-sapo.jp/
福岡・ネパール児童教育振興会	福岡市中央区赤坂1-12-6	https://www.facebook.com/fukuoka.nepal.education.promotion.committee/

※は特例認定NPO法人（令和2年3月1日現在）





お問い合わせ・アクセス

住 所 : 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号 福岡県吉塚合同庁舎5F

連絡先 : TEL 092-631-4411 FAX 092-631-4413

MAIL nvc@pref.fukuoka.lg.jp

開館時間 : 月曜日～金曜日 9:00～20:00 / 日曜日及び祝日 9:00～17:00

休館日 : 土曜日・年末年始(12/29～1/3)

※土曜日が祝日に当たるときは休館日です。

アクセス : JR「吉塚」駅より徒歩約3分 / 西鉄バス「吉塚駅前」バス停より徒歩約3分
福岡市営地下鉄「馬出九大病院前」より徒歩約10分

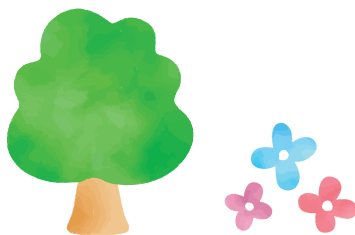
■ 福岡県共助社会づくり基金 <https://www.kifu.pref.fukuoka.lg.jp/>

■ 福岡県NPO・ボランティアセンター <https://www.nvc.pref.fukuoka.lg.jp/>

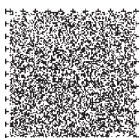


福岡県NPO・ボランティアセンター
(人づくり・県民生活部社会活動推進課)

福岡県



※この冊子はイオン九州株式会社、マックスバリュ九州株式会社、株式会社ダイエー、トヨタL&F福岡株式会社、西部ガス株式会社、損害保険ジャパン日本興亜株式会社、NPO法人福岡グリーンヘルパーの会から福岡県共助社会づくり基金への寄附金を活用して作成しています。



福岡県行政資料	
分類記号 JA	行政コード 5200116
登録年度 31	登録番号 0001